



2023年9月1日発行
 公益財団法人とちぎYMCA
 〒320-0041
 宇都宮市松原2-7-42
 Tel 028-624-2546
 Fax 028-624-2489
 www.tochigiyymca.org
 発行人 / 塩澤 達俊
 編集人 / 公益財団法人とちぎYMCA

YMCA News



LOVE ON THE RUN

表紙の写真から：第17回とちぎYMCA国際・チャリティーラン2022にて。久しぶりの再開ということもあり、一段と気合の入った第一走者の様子です。

1987年、初のチャリティーランが東京で開催され、その輪は全国21か所に広がりました。全国YMCAのチャリティーランで集められた募金は、年間400のプログラムを実施し、約3,140名の障がいのある子どもたちがキャンプなどを楽しみました。

とちぎYMCAでは、2022年10月、道の駅うつのみやろまんちっく村に約550名の参加者・ボランティアが集まり第17回とちぎYMCA国際・チャリティーラン2022が3年ぶりに開催されました。チャリティーランの収益金は全て、障がい児・者を励まし、自立を促す目的に使わせていただきます。2022年度は約107万円の寄付金が集まり、チャレンジドの子どもたちが、富士山キャンプを実施し、グループ活動にも支援をいたしました。

第18回を開催するにあたり多くの企業、団体、個人、ボランティアの皆様のご支援、ご協力を是非お願い申し上げます。この大会を通して、協力者、ボランティアの人たちが障がいに対する関心を高め、障がい児・

者と共に手を取り合って生きていく社会づくりを考える機会となれば幸いです。社会貢献活動に繋がるご協賛を重ねてお願い申し上げます。

とちぎYMCA
 インターナショナル・チャリティーラン2023

2023年10月22日（日）開催予定



チャリティーラン実行委員長
 岡田 孝司

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2023年度とちぎYMCA年間聖句

主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。」(イザヤ書40章31節)

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイによる福音書11章28節)



認定こども園 さくらんぼ幼稚園 「 さくらんぼ便り 」



7月20・21日に、年長組は森林公園にて宿泊保育をおこないました。年長さんにとって一大行事である宿泊保育ですが、最近新型コロナウイルス感染症の影響で行えず、久しぶりの宿泊保育となりました。今までに行きたくても行くことができなかったお兄さんお姉さんたちの思いを背負って元気に出発しました。
すいか割り、プール、レクリエーション、サイクリング、キャンプファイヤー、山登り、スタンプラリーと盛り沢山の2日間を過ごしました。天気が心配される場面もありましたが、みんなの思いが届きすべての行事を楽しみ行うことができました。



キャンプファイヤーでは火の精に会うことができ、段々暗くなっていく空の元で楽しく歌って踊って貴重な時間を過ごすことができました。スタンプラリーでは友だちと協力してゴールを目指し仲間との絆が更に深まりました。不安そうな表情で登園した子ども帰る頃には「楽しかった♪」とキラキラの笑顔に変わっていました。
大好きなお父さん、お母さんと離れて初めてのお泊りをした子ども多かったと思います。この2日間たくさんのことを吸収し大きく成長できました。温かく見守ってくださった保護者の皆様、ご理解、ご協力ありがとうございました。

年長うめ組担任 牛山 愛

子どもの家だより ～西が岡小 子どもの家～ 「 だろんこ広場の夏休みの様子 」



7月24日(月)より子どもたちが楽しみにしていた夏休みが始まりました。
夏休みの前から支援員で子どもたちが楽しく過ごせるように話し合いを重ね計画を立てました。水遊びやマンカラ大会、宝探しゲームにスライム作り、DVD鑑賞、手ぬぐい染め、ババ抜き大会、駄菓子屋さんごっこ、工作、夏祭りとお楽しみ計画が沢山あります。
特に毎年恒例の手ぬぐい染めでは子どもたちはもちろん、保護者の

方からも好評です。手ぬぐいにペットボトルのキャップやおはじきをはさみ、輪ゴムでぐるぐる巻いて留めていきました。子どもたちはキャップやおはじきをはさむことで模様が出るので完成した時の模様を想像しながら作っていました。青と赤で好きな色を選び、染め上げていきました。完成した手ぬぐいは模様も色もとても綺麗にできていました。
夏休みの中に楽しい時間を支援員一同協力して、子どもたちに届けることができました。

主任支援員 麻生久子

宇都宮東YMCA 「 Thank you for the Bake Sale at YMCA East 」



宇都宮東 YMCA では、6月19日～22日に国際協力募金「Bake Sale」を行いました。
かわいいお菓子や美味しそうなもの他、手作りのミニペーパーバッグやポチ袋が、賑やかに並べられました。
子どもたちは保護者を誘って事務所に入り、どれにしようかとじっくりと選んで購入してくれました。
売り上げの合計は、13,500円となり、とちぎYMCA 国際協力募金に入れさせていただきました。
お菓子やクラフトを作ってくれた方、購入して下さった方々、皆様のご協力有難うございました。

【ご協力いただいた方】(順不同)
向山莉央さん保護者様、貞清亮人さん・千尋さん保護者様、菊地万里さん、本間あゆみさん、市川靖子さん、大浦智子さん

ようとう保育園 「 保育参観の様子 」

【0歳児 つくしぐみ】

暑さが厳しくなってきた7月25日(火)、保育参観を行いました。
ふれあいあそびや簡単な親子レクリエーション、水あそびを通して、普段子どもたちがどのような活動をしているか保護者の皆様にも体験して頂きました。お父さんと一緒にハイハイしたり、洋服を濡らして水あそびを楽しんだりしているパパやママの姿に、子どもたちの笑顔も輝いていました。
ご家庭での様子なども情報交換でき、貴重な時間となりました。
改めて保護者の皆様と共に大切なお子さまの成長を見守り、育てていることを実感し、感謝の思いでいっぱいです。



田崎 智恵子

【1歳児 たんぽぽぐみ】

7月21日(金)多くの保護者の皆様にご参加頂き、アットホームな雰囲気のなかで行われた保育参観。
触れ合いあそびをすると「バスにのって」の曲に合わせて「ゴーゴー!!」とパパやママの膝の上でノリノリな子どもたち。簡単なリズムあそびも「もしもしカメよ」のリズムにのってハイハイしたり、ウサギになってピョンピョン跳ねたり。親子で体を動かしながら、子どもたちのかわいい姿をお見せすることができました。



プールあそびでは、ペットボトルのシャワーや水鉄砲、日頃行っている片栗粉を使った感触あそびも楽しんで頂きました。「初めてやりました!」「ドロドロ、気持ちがいいね」などおうちの方も夢中になっていたようです。
限られた時間ではありましたが、普段取り組んでいる活動を通して、保護者の皆様、子どもたち、保育士が和気あいあいと貴重な時間を過ごすことができました。

鈴木 真実

宇都宮市青少年活動センター(トライ東) 「 あそぼまつりを開催しました! 」

7月9日(日)にあそぼまつりを開催しました。前日までの天気予報は雨となっていたましたが、当日は天候に恵まれ、とても暑い1日となりました。
おまつりでは本館、体育館でそれぞれ様々な出店をし、本館は主にテイクアウトブースとして食べ物をメインに販売しました。



日本栄養給食協会のやきそば、宇都宮東ワイズメンズクラブからわたあめ、さらに宇都宮ワイズメンズクラブからカレー、その他にはフランクフルトや塩澤総主事からフライドポテトの出店などがあり、今回初の出店となる opapa kitchen では、ビーフシチューの他にソーダドリンク、チョコレートパフェの販売の他に「ふわふわ」という遊びの場があり、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見ることが出来ました。



また、本館2階講習室では宇都宮東 YMCA による英語であそぼうコーナーが設置され、国旗のちぎり絵や、塗り絵など様々なイベントを行い、大人も子どもも楽しめるコーナーとなりました。



体育館ではレクリエーションブースとして遊びをメインに行い、来館された皆さまが楽しく過ごされていました。他にも、体育館にてオープニングを宇都宮 BREX BREXY チアダンスレベルアップキッズの皆さんが飾ってください、多くの方と共に盛り上がる事ができました。



開催にあたりまして、今年もたくさんの方のご来場とお力添えをいただきありがとうございました。おかげさまで地域の皆様、ボランティアの皆様の笑顔溢れる、よいおまつりとなりましたことを、スタッフ一同感謝申し上げます。

サマープログラム ありがとうございました!



とちぎ YMCA ではこの夏も子どもたちの全人的成長を願い、サマープログラムを計画しました。今年度も参加者の皆様、ご家族の皆様にはより一層のご理解とご協力をいただきました。みなさまのお力添えに心より御礼申し上げます。

YMCA のキャンプは、「為すことによって学ぶ (Learning by doing)」を理念とした野外教育活動です。その理念は、「どのような教育的な経験も、子ども (対象者) の興味・関心から離れていたならば、その経験は子ども (対象者) にとって本質的なものにならない。よって興味と自発性に基づいて子どもを導く」という考え方に導かれたものです。子どもたちは、友だちやリーダーと一緒に自然の中でさまざまな活動をするによって、人間関係を学び、自然・社会への関心を深めていきます。YMCA では、子どもたちが安全に、安心して、たくさんの自然に触れながら、仲間と一緒に思いっきり遊ぶことを通して、一人ひとりの豊かな成長を育みます。

今年のサマープログラムはお子様にとって、どのような思い出となったでしょうか。きっとお子様が感じる思い出と、ご家族が感じる思い出はまた違ったものになっていることと思います。

私たちとちぎ YMCA のサマープログラムの体験は、ご参加されたみなさまとご家族に、日々生活を送っていく中でじわじわと体験の効果が届いていくことを大切にしています。

私たちが行う野外教育プログラムには7つの目的があります。

1. 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける。
2. 良い習慣を経験し、良い習慣を身につける。
3. 健康のための知識と経験を与える。
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育む。
5. 良い友人を作る方法を学び、創造力を育む。
6. 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を養う。
7. 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う。



これらの目的は「自然と他者 (ヒト) と自分」が密接にかかわっていく中で達成されていくもので、まさしく他我を触媒として自我を目覚めていくものです。



YMCA のプログラムが実施できるのも、お子様を送り出すご家族の勇気と、たくさんの初めてと向かい合える子どもたちの適応力と、リーダーの熱い思いがあってのおかげです。

私たち YMCA での体験がこれからのお子様の成長の糧となり、時間をかけて実っていただけたら幸いです。ウィンタープログラムもどうぞよろしくおねがいします。



ICEP プログラム ありがとうございました!

たくさんの方々のご協力を得て、4年ぶりのICEPプログラムが無事に終了いたしました。
7月7日～8月6日までの1か月間アメリカの高校生が15名来日し、①ボランティア ②ユースとの交流 ③文化体験・観光の体験をいたしました。

①ボランティア

さくらんぼ幼稚園、ようとう保育園、昭和小学校学童への訪問、日本の子どもたちのリーダーとなり、1泊2日のキャンプや3DAYSに参加したり、国際協力募金のイベントを行ったり、トリクマカフェの夏祭りボランティア、釜川クリーニング大作戦へ参加したりしました。自分は子どもが大好きだなと再認識したり、思うように自分が役に立ってないと感じたり、思ったより子どものグループを引率することが大変だと気付いたり、いろいろな気づきがあったようでした。



②ユースとの交流

ワークショップや宇都宮短期大学附属高等学校への訪問、お団子づくり、を行い、英語やジェスチャーを交え日本のユースと楽しく交流することが出来ました。

③文化体験・観光

宇都宮だけでなく、日光や東京にも足を延ばしました。日本の伝統的なものを買ったり、アニメ関係のものや、洋服を買ったり、ガチャガチャをしたり、大満喫でした。



たくさんを経験をした彼らですが、一番の思い出は、日本の子どもたちとのキャンプや3DAYSでのリーダー体験、夕飯ボランティアの方が作ってくださった日本食、ホストファミリーデーとして、日本の家族と過ごしたことです。たくさんの方々の交流が彼らの一番の思い出になったことをうれしく思うとともに、さまざまな形で関わってくださった皆様に感謝いたします。
また来年もICEPプログラムをどうぞよろしくお願いいたします。



月刊# (ハッシュタグ)



第27回 #なにそれなにそれ

とちぎYMCA総主事
塩澤 達俊

#ぼくらが旅に出る理由#ホモ・モビリティス#YMCA キャンプ

みなさん夏の旅はいかがでしたか? 「やっぱりおうちがいちばん!」旅行から帰ってきてこんなセリフを聞いたことはありませんか? それでも、わたしたちはまた旅に出たくなり、次の休みはどこへ行こうかなとワクワクしてしまうから不思議なものです。

YMCAキャンプも同じで、もうイヤ!と思いつつまた行きたくなったりします。今月はその理由を考えてみました。

人類はアフリカで誕生して、アフリカからユーラシアへと移動し、ホモ・サピエンスが誕生してからは更に南北アメリカ大陸～オーストラリアへと地球の隅々まで移動しました。これを捉えて人類は《ホモ・モビリティス：移動するヒト》とも呼ばれます(人類学者片山一道など)。

また《人は移動するほど幸せを感じる》こんな研究成果もあるそうで(マイアミ大・ヘラー准教授 2020)、それによると「行ったことがない場所に行くなど情報探索の度合いが高い日はより幸せを感じる」、「身体的な位置の変動が人間のポジティブな感情の増加と関連する」のだそうです。確かに新しい場所へ移動すると新しい環境に適応するために情報を検索したり、入手した情報を上書きしたりする必要がありますが、それが幸せ感と関係があるとは驚きです!

生きるために環境をどんどん変えて移動する!→生じるストレスは好奇心で検索&上書きして克服!→すると脳内でポジティブな幸福感が増えて!→より善く生きるためにどんどん新しい環境へ移動!→・・・以下繰り返し。この移動と幸福感のメカニズムはわたしたち《ホモ・モビリティス》が七〇〇万年前から繰り返してきた生存戦略なのかもしれません。

VRと情報の時代ですから、物理的にどこへ、どれだけ遠くへ行くかではなく、どれだけ多様な新しいことに出会えるかと、「旅」の神髄を読み替えることでこの生存戦略は心や脳の中でいつでも再現可能なはず。

わたしたち《ホモ・モビリティス》は、見たり聞いたり触ったりして感情が動く感性の「旅」と、不思議や疑問に思っあれこれ考えたりアイデアを浮かべたりする悟性の「旅」を通じて、ますます遠くへ、強くなって行けるはず。

さあ、次はどんな「旅」に出しましょうか?

高校生ボランティアグループ「つぼみ」

つぼみ通信 vol.5



サンタ de ラン&クリーンキックオフ!



つぼみでは、子どもの貧困解決のために様々なアクションを起こしています。その中でも、今年度私たちが設定した2つの大きな活動テーマのうちの1つ、「サンタ de ラン&クリーン」の若者チームキックオフが行われました。

つぼみは毎年、若者チームとして準備の段階から活動しています。先日、今年の実行委員長と若者チームとして活動する大学生のリーダーから改めて「サンタ de ラン&クリーン」とは、どのようなイベントなのかの説明をいただき、一人ひとりの意気込みや、イベントに対する思いを共有しました。

多くの人に「つぼみ」の活動や取り組みと「子どもの貧困」の現状について知ってもらえるように活動していきます!

矢板東高等学校 2年 横山由佳 (ぼっぷ)

●第8回子どもの貧困撃退♡チャリティ サンタ de ラン&クリーン

サンタになって、子どもの貧困をなくそう。2023年12月17日(日)にオリオンスクエアにて開催決定! 子どもの貧困の現状について、一人でも多くの方に知ってもらい、「私たちができる」アクションをしていくチャリティイベントです。